

<福島県知事賞>

税金は可能性の扉

喜多方市立第三中学校 三年 小関 春陽

私は、将来図書館司書になりたい。私は図書館や図書室が大好きだ。周りを本に囲まれ、清潔な机や椅子が置かれる、あの無駄の少ないきれいな空間が大好きだ。本は、私を見たことのない素敵な世界に連れていってくれる、物語を読めば、現実では見ることができない景色が見れたり、現実で起きた辛いことや嫌なことから離れ、自分の心の動きに夢中になったりすることができる。図鑑を開けば、知りたかったことを詳しく教えてくれたり、知っていたことに対する理解を深めさせてくれたりする。本の数だけ新しい世界や発見、自分に秘められた可能性があるのだ。図書館は本を無料で読んだり、借りたりすることができる。私たちは無料で新しい世界を知ることができる。なぜ、私たちは図書館を無料で利用することができるのだろうか。

ある日の社会の授業は租税教室だった。私たちにも身近な消費税、両親や先生など給料をもらっている人が払う所得税、温泉地の温泉に入浴したときに払う、入湯税というものまであることを知った。また、様々な公共施設の建設・修理などにも税金が使われていることを学んだ。図書館も、その一つである。図書館の本はもちろん、机や椅子にも税金が使われている。私たちが図書館を無料で利用することができるのは、私たちの税金で図書館が運営されているからだったのだ。私たちが無料で新しい世界を知ることができるのは税金のおかげなのだ。

しかし、図書館を利用する人はあまりにも少ない。インターネットの普及により、調べたいことがあったのならば、片手に持ったスマホに打ち込めばいいのだ。わざわざ図書館に行って本を開かなくてもいいのだ。多くの税金が使われているのに、利用者が少ない図書館は、税金の無駄遣いだと言われてしまう。あんなに清潔に整えられていて、あんなに素敵な世界がたくさんあるのに。私はもったいないと思ってしまう。図書館に行くことで、私は色々なことを知ってきた。図書館に行くことで、色々な世

界を景色を見てきた。図書館はみんなのために、いつでもそこにあるのに、スマホの方が簡単だから、どこにいてもすぐに結果がでるからと放って置かれてしまう。目の前の小さな画面に夢中になるより、全体から正しいものを見つける楽しさを感じた方が良いのではないか。本を開いて、考えながら、新しい世界を見た方がきっと楽しくて、きっと身につくと思う。

私は、将来図書館司書になりたい。誰かが新しい世界を見つける手助けがしたい。私がそうしてもらったように、本の楽しさを誰かに伝えたい。そして、一人の大人として、税金を納めることで、図書館をもっと使いやすく、もっと色々な世界であふれる、素敵な空間にしたい。もう、図書館は税金の無駄遣いとは言わせない。税金は、図書館は、あなたの可能性の扉なのだ。